

## ●日本一美しい観測地

体育館や野球場、陸上競技場など運動施設がある総合公園の一角に、銀色のドーム屋根の建物がある。国道221号を小林市から車を走らせ、高崎町の中心部に入って、まず目にするのがこの白い円筒形をした「たちばな天文台」である。

環境庁が実施する星空継続観測（スターウォッチングコンテスト）で、高崎町は一九八七（昭和六十二）年から九二（平成四）年まで連続六回、通算では七回も「日本一星空が美しい町」に選ばれた。これは全国で最多。この背景には、高崎星を見る会（会長・葦部樹生さん）が継続的に天体観測を行っていたことがあげられる。

星を見る会は当時、土曜日の夜になると運動公園の駐車場に集まり、観測を続けた。コンテストの判定基準は、琴座のベガ星に三つの星のかたまりがあり、その星を結ぶ三角形の中にある星の数で決める。



たちばな天文台。星の町のシンボルとして人気が高い

通常は双眼鏡で十個前後見えるというが、高崎町では三十個も見えた。満天に輝く無数の星は、近くに高い山がなく、乱気流が発生しない、排ガスによる大気汚染がないなどの環境でなければ見られないという。

過疎に悩んでいた町にとって、美しい星空は地域おこしの絶好の材料。町民で組織した五十人委員会が観光と景気浮揚の目玉として決まり、九一（平成三）年、その核となる「たちばな天文台」がオープンした。

現在天文台は、五〇〇ミリの反射望遠鏡、二〇〇ミりと一〇〇ミリの屈折望遠鏡、八〇ミリの太陽望遠鏡、四十人収容のプラネタリウムと研修室などを備える。天文台指導員には星を見る会の葦部会長ら天体に詳しい人たちを依頼、研修に訪れる小、中学生たちを指導している。

また、流星観測など各種の天体観測も実施。

「しし座流星群」が見られた二〇〇一（平成十三）年十一月には、県内外から六百人もの人々が訪れ、宇宙の神秘、素晴らしい天体ショーに感動した。このほかロケット打ち上げの追跡観測も行っている。打ち上げ時にできる発光雲の観測で、全国で四カ所依頼されているうちの一つである。

今では土、日曜日になると親子連れや若い人たちが訪れ、太陽や昼間の星、また金星や北極星、土星の輪などを歓声をあげながら観測している。星を生かしたいろんなイベントも企画され、「星降る町」は文字通りきらきら輝いている。

前田博仁